

発刊によせて



日本赤十字社 広島県支部長
湯崎 英彦

このたび、先の豪雨災害における日本赤十字社広島県支部の救護活動の記録をまとめるに当たり、豪雨災害の犠牲となられました方々に対しまして、衷心より哀悼の意を表しますとともに、未だ困難な生活を強いられておられる多くの被災者の方々にお見舞いを申し上げます。

平成30年7月3日から8日にかけて、わずか6日間で7月の過去の最大月間降水量を超える雨量を記録するなど、県内各地で観測史上初となる記録的な豪雨に襲われ、多くの人的被害や、家屋、インフラといった物的損害など、戦後最大の被害がもたらされました。

この豪雨災害において、日本赤十字社は発災直後から本社をはじめ全国の赤十字関係施設から多くの職員が参集し、防災ボランティアの皆様の御協力を得ながら、総力を挙げて困難な状況を乗り切り、赤十字に課せられた役割を果たすことができたものと思います。

寝食を忘れて救護活動などに従事された全国の日赤職員、救護活動を支えていただいた防災ボランティア・赤十字奉仕団、救援物資の配布に御尽力いただいた地区・分区職員の皆様、義援金を募っていただいた青少年赤十字加盟校の児童・生徒様をはじめとする関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

私ども日本赤十字社は、これまで国内外を問わず様々な困難や苦しみ、痛み、悲しみに手を差し伸べる活動を行って参りました。

特に災害救護における救護員の派遣は、日本赤十字社の歴史そのものと言っても過言ではありません。

そうしたことから、今般、広島県支部では、「平成30年7月豪雨 日本赤十字社広島県支部の活動記録」を編さんいたしました。本書は、単なる活動記録に留めることなく、課題を検証し、様々な教訓を含んだ記録として伝え残すことを主眼としたものです。

今後もきわめて高い確率で発生が予想されている南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、防災・減災対策や救護員の養成など、救護体制の更なる充実・強化に取り組み、県民の皆様の御期待に応えて参る所存でございます。

最後に、今まで多大なる御協力を頂いております関係者の皆様に対しまして、ここに深く感謝いたしますとともに、今後ともより一層の御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げ、刊行のごあいさつといたします。